

[成果情報名]半促成長期どりアスパラガスに発生するタバココナジラミのバイオタイプと気門封鎖剤の効果

[要約]本県の半促成長期どりアスパラガス産地に発生するタバココナジラミは、バイオタイプQが多数を占めている。また、本種に対する気門封鎖剤（オレート液剤100倍、サンクリスタル乳剤300倍）の散布は発生を低く抑える。

[キーワード]半促成長期どりアスパラガス、タバココナジラミ、バイオタイプ、気門封鎖剤

[担当]農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330

[区分]野菜（生産環境）

[分類]指導

[背景・ねらい]

近年、県内の半促成長期どりアスパラガスにおいてタバココナジラミが多発生する事例が急増しており、海外からの新規侵入害虫であるタバココナジラミバイオタイプQも発生している（平成17年度病害虫発生予察 特殊報第2号）。本種が多発生すると、すす病の発生による光合成の阻害で減収が懸念されている。しかし、現在、本種に対しアスパラガスで使用できる登録薬剤はモスピラン水溶剤しかなく、効果的な防除対策がとられていない。そこで、県内アスパラガス産地におけるタバココナジラミ類のバイオタイプの発生分布を明らかにするとともに、野菜類で登録がある気門封鎖剤を用いて、アスパラガスにおける本種に対する防除効果を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 本県のアスパラガス産地に発生するタバココナジラミは、バイオタイプQが多数を占めている（表1）。
2. 気門封鎖剤のオレート液剤100倍およびサンクリスタル乳剤300倍は、タバココナジラミの発生を抑制し、「すす」によるアスパラガスの被害を軽減できる。特に、オレート液剤は長期間タバココナジラミの密度を抑制できる（図1, 2, 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験の散布量は、10アールあたり、オレート液剤が1～3回散布は3000、4、5回目散布は5000、サンクリスタル乳剤が全て3000である。
2. サンクリスタル乳剤は、5回目散布19日後に擬葉が黄化する症状が見られたが、最終散布から時間が経過していたことから、今後原因を明らかにする必要がある。
3. 1回の薬剤散布にかかる10アールあたり、薬剤価格はオレート液剤が10,000円（5000）、サンクリスタル乳剤が8,100円（3000）である。

[具体的データ]

表1 県内アスパラガス産地に発生するタバコナジラミのバイオタイプ

採集地	採集日	検定数	バイオタイプ	
			Q	B
深江町①	2008.8. 6	7	7	0
深江町②	2008.8. 6	9	9	0
松浦市	2008.9.10	10	10	0
高来町①	2008.9.18	9	9	0
高来町②	2008.9.18	9	2	7
琴海町①	2008.9.22	10	10	0
琴海町②	2008.9.22	10	10	0
計		64	57	7

※バイオタイプの検定はRCR-RFLP法による

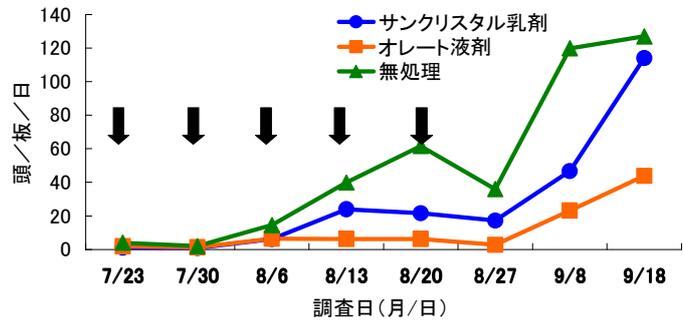


図2 気門封鎖剤によるタバコナジラミ成虫の密度推移 (黄色粘着板誘殺調査)

※矢印: 薬剤散布日

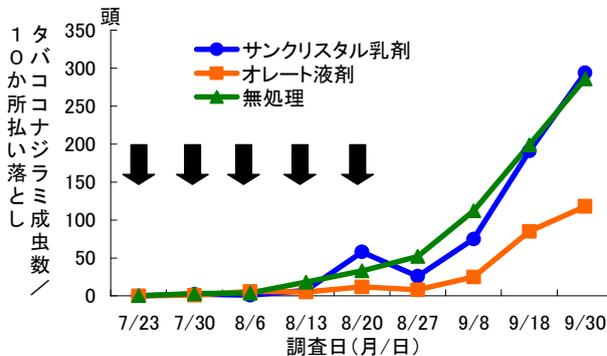


図1 気門封鎖剤散布によるタバコナジラミ成虫の密度推移 (払い落とし調査)

※矢印: 薬剤散布日

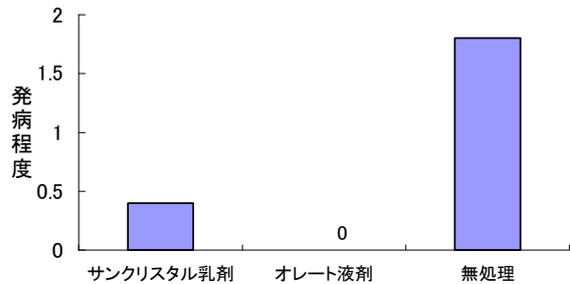


図3 気門封鎖剤散布のタバコナジラミによるすす病抑制効果

※1調査日: 9/8

※2発病程度: 0: 無発生 1: 甘露に発生したすすが点在する
2: 甘露に発生したすすが多数見られる 3: 擬葉の表面を1~3割程度すすが覆う 4: 擬葉の表面を3割以上すすが覆う

※3発病程度 = $\sum(\text{程度別発病擬葉数} \times \text{指数}) / (\text{調査擬葉数})$

[その他]

研究課題名: アスパラガス重要病害虫の効率的防除技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2003~2008年度

研究担当者: 高田裕司